

整形外科

【当科でローテーションしたら-これが売り！！】

(1ヵ月の例)

○整形外科一般・創処置マスターコース

どんな科に行くとしても身につけておきたい整形外科の知識・創縫合・糸結びの技術を1ヵ月で経験します。生涯役立つ知識経験が得られます。

(2ヵ月の例)

○オンリー1. エリート整形外科医育成コース

※以下の整形外科サブ領域のエリート教育が受けられます。

A) 脊髄脊髄外科 B) 股関節外科学 C) 骨軟部腫瘍学 D) イリザロフ創外固定器を用いた外傷外科及び足の外科 E) スポーツ・膝関節外科学

※それぞれのサブ領域は、全国でもトップレベルです。2ヶ月では、エリート整形外科医に到底到達できるわけではありませんが、大きなモチベーションを今後維持していくきっかけになると考えます。個々の希望や能力の応じて、オーダーメイド研修を行えます。

【専門研修に向けて(希望者には！)】

整形外科学において、外傷学は全ての基本ですので、外傷治療のABCについて深い知識と多くの技術を学んでいただきます。また、希望する subspeciality に向けた研修をオーガナイズします。

【研修目標と評価】

一般目標

日常診療で頻繁に経験する整形外科的疾患(脊椎、関節疾患、腫瘍性疾患、外傷一般)に対する診断、治療、周術期管理が適切にできるよう、基本的な知識、技能、態度を身につける。

○脊椎疾患

行動目標

1. 正確な手技で神経学的所見をとることができる。
2. 神経学的所見から障害部位を特定できる。
3. 診断及び治療に必要な検査を選択、指示できる。
4. 脊椎疾患に対する適切な治療法の選択ができる。

チェックリスト《5段階評価》

知識:

1. 頚椎性脊髄症と神経根症の鑑別ができる。

2. 腰部脊柱管狭窄症の診断，鑑別ができる。
3. 腰椎椎間板ヘルニアの診断，鑑別ができる。
4. 脊椎疾患に対する治療法の選択と予後の推測ができる。

技能：

1. 正確な神経学的所見をとることができる。
2. 神経学的所見から障害部位を特定できる。
3. 単純 X 線写真の読影ができる。
4. 脊髄造影の実施とその評価ができる。
5. 椎間板造影，神経根造影の実施とその評価ができる。
6. 脊椎の CT，MRI を読影できる。
7. 臨床所見と画像所見から病変部位を特定し，治療方針を決定できる。
8. 周術期管理ができる。(装具，リハビリを含む)

○関節疾患

行動目標

1. 四肢の所見が正確にとれる。
2. 頸椎疾患と肩関節疾患，腰椎疾患と股関節疾患の鑑別ができる。
3. 関節疾患に対する診断及び治療に必要な検査を選択，指示できる。
4. 関節疾患に対する適切な治療法の選択ができる。

チェックリスト《5段階評価》

知識：

1. 四肢の関節の基本構造と働きを説明できる。
2. 四肢の関節の疼痛，機能障害をきたす疾患の鑑別ができる。
3. 関節疾患に対する治療法の選択と予後の推測ができる。

技能：

1. 四肢の関節の炎症所見（発赤，疼痛，腫脹，熱感）を正確に評価できる。
2. 診断に必要な圧痛部位を正確に評価できる。
3. 各種疼痛誘発テストを正確に行い正しく評価できる。
4. 四肢の関節の単純 X 線写真，CT，MRI が読める。
5. 臨床所見と画像所見から病変部位を特定し，治療方針を決定できる。
6. 周術期管理ができる。(装具，リハビリを含む)

○腫瘍性疾患

行動目標

1. 骨，軟部腫瘍の視診，触診ができる。
2. 骨，軟部腫瘍の単純 X 線写真，CT，MRI が読める。

3. 臨床所見と画像所見から鑑別疾患を列挙できる。
4. 生検標本の病理所見から診断を確定できる。
5. 骨、軟部腫瘍に対する治療方針の決定と予後の予測ができる。

チェックリスト《5段階評価》

知識：

1. 単純 X 線写真から骨腫瘍の鑑別診断が列挙できる。
2. CT, MR I から骨、軟部腫瘍の鑑別診断が列挙できる。
3. 転移性脊椎腫瘍の原発巣の検索ができる。
4. 化学療法、放射線療法の適応の決定とその効果判定ができる。

技能：

1. 針生検ができる。
2. 臨床所見と画像所見から診断、治療方針を決定できる。
3. 化学療法のプロトコルを理解し、適切に遂行できる。
4. 化学療法の副作用とそれに対する適切な対応ができる。

○外傷

行動目標

1. 外傷患者に対する臨床的能力を身に付ける。
2. 外傷患者の診断に必要な検査を迅速に判断し指示できる。
3. 外傷の合併症を予測し迅速に適切な対応ができる。
4. 必要に応じて専門医に診療を依頼できる。

チェックリスト《5段階評価》

知識：

1. バイタルサインを正しく把握し、生命維持に必要な処置を的確に行う。
2. 問診、全身の診察及び検査によって得られた情報をもとにして、迅速に判断をくだし、初期診療計画をたて、実施できる。
3. 指導医または専門医の手にゆだねるべき状況を的確に判断し、申し送りできる。
4. 小児の場合、保護者から必要な情報を要領良く聴取し、小児に不安を与えないよう診察を行い、必要な処置を原則として指導医の下で実施できる。
5. 受傷機序と臨床所見から骨折、脱臼、靭帯損傷、腱断裂の臨床診断が適確にできる。
6. 神経、血管損傷の合併の有無を判断できる。
7. 統合検査（血液学、血清学、生化学）、尿一般検査、細菌検査、生理検査、さらに必要な画像検査を選択、指示し、結果を正しく解釈できる。
8. 滅菌・消毒法の基本を理解している。

9. 薬剤（特に消炎鎮痛剤、抗生物質）、輸血、血液製剤の使用法を理解している。

技能：

1. 固定（包帯，副子，ギプス，テーピング）が適切にできる。
2. 直達，介達牽引ができる。
3. 洗浄，デブリドマン，皮膚縫合ができる。
4. 指導医のもとで単純な骨接合，腱縫合ができる。
5. 術前準備（体位，手洗い，包布のかけかた），手術の介助ができる。
6. 創処置（ガーゼ，包帯交換，皮膚縫合，切開を含む），ドレーン，チューブ類の管理ができる。
7. 注射（皮内，皮下，筋肉，関節，点滴，静脈確保）ができる。
8. 採血（静脈血，動脈血）できる。

【方略】研修方法

1. 主に入院患者を数名担当し，上級医，指導医とともに周術期管理を学ぶ。
2. 上級医の指導の下，外来診療を学ぶ。
3. 上級医の指導の下，救急外傷への適切な対応を学ぶ。
4. 上級医，指導医とともに手術に入り，基本的手術手技を学ぶ。
5. 総回診前，ケースカンファレンスで症例提示を行いプレゼンテーション能力を磨く。

指導医

宮腰尚久，本郷道生，粕川雄司，野坂光司，永澤博幸，齊藤英知，木島泰明，
白幡毅士，工藤大輔，木村竜太，尾野祐一，赤川学，湯浅悠介，村田昇平

整形外科ホームページ：

<http://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/>

整形外科についてのご質問は，

木村竜太

e-mail : seikei@doc.med.akita-u.ac.jp

TEL : 018-884-6148, FAX 018-836-2617

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00	回診・外来	回診・外来・手術	回診・外来	回診・外来・手術	回診・外来・手術
10:00					
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00	病棟・外来	病棟・外来・手術	病棟・外来	病棟・外来・手術	病棟・外来・手術
14:00	総回診				
16:00	抄読会				

*救急患者が来た場合はその対応